目　　次

頁

Ⅰ　序　章

1　調査の経過と概要……1

2　周辺の調査……2

Ⅱ　遺　構

1　遺跡の概観……3

2　遺構……4

Ⅲ　遺　物

1　土器……10

2　瓦塼……24

3　木製品・石製品・金属製品……25

Ⅳ　考　察

1　条坊と遺構の占地……31

2　遺構の変遷と性格……34

3　史料からみた平城京の宮外官衙……38

4　結語……44

図　版

表紙　調査地と平城宮遠景（南から）

口絵　SK5769出土土器

PL.　1－1　SE5768　南から

　　2　SK5769遺物出土状況

PL.　2　調査区全景

PL.　3－1　調査区北半　南東から

　　2　調査区南半　東から

PL.　4－1　SB5752・SB5754　北から

　　2　SB5755　西から

PL.　5－1　SB5753　西から

　　2　SB5758　西から

PL.　6－1　SB5757　東から

　　2　SB5760　北から

PL.　7－1　SB5762・SK5769　東から

　　2　SB5763　東から

PL.　8－1　SB5761　東から

　　2　SF5776　南から

PL.　9－1　SE5765・SE5766　東から

　　2　SE5764　南から

巻末折込

遺構図（1：200）

挿　図

fig. 1　調査地周辺の航空写真（1962年撮影）
fig. 2　発掘調査風景
fig. 3　周辺の調査
fig. 4　周辺の開発状況
fig. 5　SB5752・5754
fig. 6　SB5752　柱穴断面
fig. 7　主要遺構配置図
fig. 8　SE5764・SE5767
fig. 9　SE5765・5766
fig.10　SE5768
fig.11　SK5769土器出土状況
fig.12　井戸出土土器
fig.13　SE5768出土土器
fig.14　SK5769出土土師器
fig.15　SK5769出土須恵器 1
fig.16　SK5769出土須恵器 2
fig.17　土壙出土土器 1
fig.18　土壙出土土器 2
fig.19　施釉陶器他
fig.20　不明土製品
fig.21　火舎状土製品
fig.22　墨書土器・硯
fig.23　SK5774出土土器
fig.24　SE5767出土土器
fig.25　SK5770出土土器
fig.26　古墳時代土器
fig.27　軒瓦
fig.28　木製品 1
fig.29　木製品 2
fig.30　曲物
fig.31　石製品・金属製品
fig.32　七坪遺構配置図
fig.33　周辺発掘遺構と条坊復原図（1：2000）
fig.34　遺構変遷図
fig.35　大学寮図
fig.36　第133次調査出土木簡

表

tab. 1　調査経過
tab. 2　関連条坊座標一覧表
tab. 3　七坪四隅の復原条坊座標値
tab. 4　平城宮・京出土「厨」銘墨書土器一覧

例　　言

1　本書は奈良市二条大路南三丁目179－1ほかに位置する平城京左京三条一坊七坪の発掘調査報告である。

2　調査は民間会社の開発行為にともなう事前調査として、奈良県教育委員会の委託を受けた奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部（部長　町田　章）が実施した。

3　調査は平城宮跡発掘調査部の平城宮跡第231次調査に該当し、調査期間は1992年1月8日から3月31日まで、調査面積は2200㎡である。

4　調査には中村慎一・杉山洋・山崎信二・高瀬要一・浅川滋男・渡辺晃宏が参加し、堀沢祐一・安達志津子・松尾史子・谷川亜紀子・谷口智樹の協力を得た。調査にあたっては奈良県教育委員会事務局の協力を得た。また報告書編集に際し、奈良市教育委員会の協力を得るとともに、松岡縁・吉村順子の助力を得た。なお、不明土製品（126）の用途等については、奈良国立博物館の御教示を得た。

5　本書の作成は、平城宮跡発掘調査部長町田　章の指導のもとに調査員全員があたり、全体の討議を経て次のように分担執筆した。

Ⅰ・Ⅲ－1・Ⅱ－1・Ⅳ－4：杉山洋、Ⅱ－2・Ⅳ－2：浅川滋男、Ⅲ－2：山崎信二、Ⅲ－3：中村慎一、Ⅳ－1：高瀬要一、Ⅳ－3：渡辺晃宏

6　遺構・遺物・図版の写真は佃　幹雄・牛嶋　茂・杉本和樹が担当し、森本佐由理の協力を得た。

7　本書の編集は杉山が担当した。